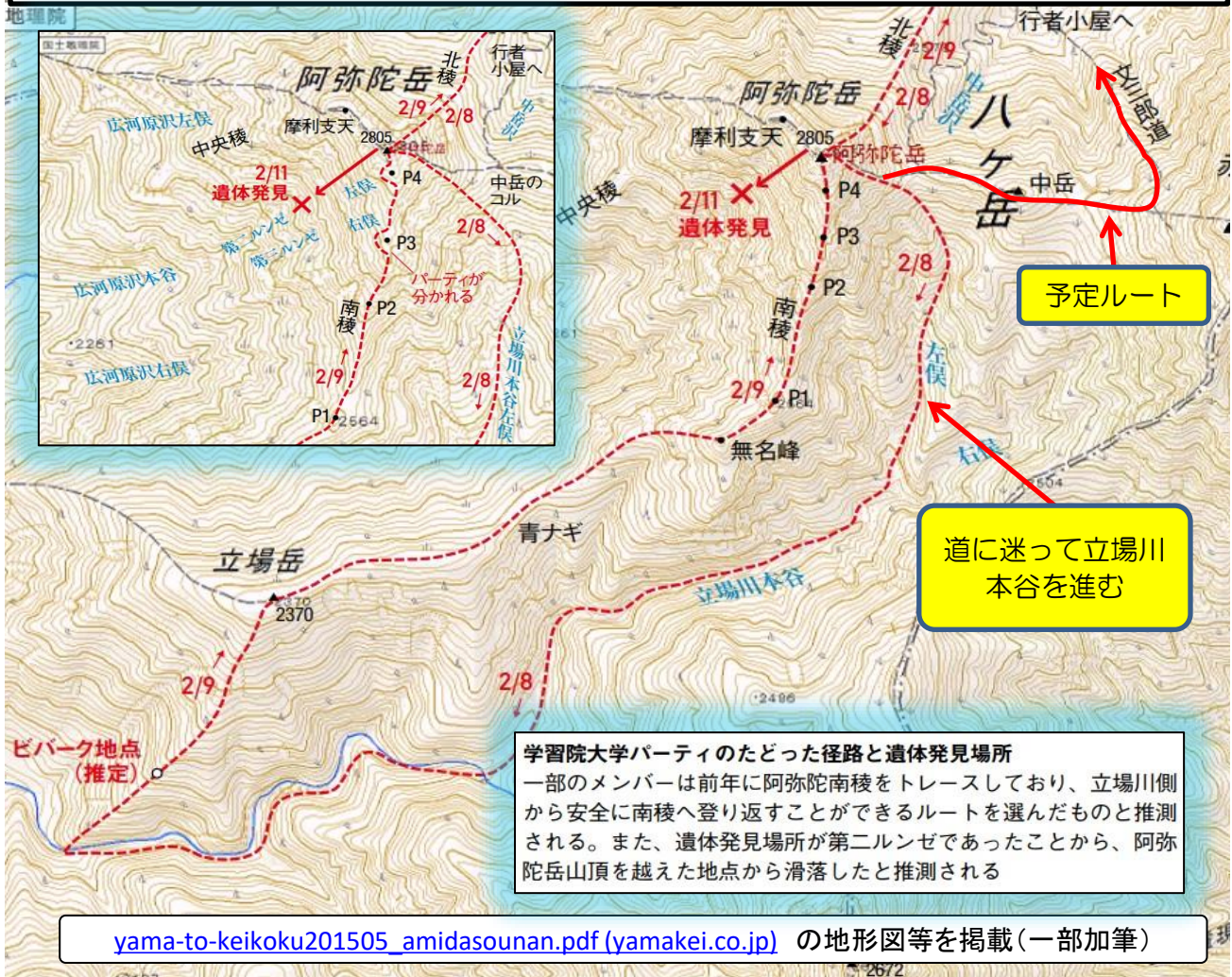


阿弥陀岳遭難(2015年2月)

学習院大学山岳部の5人は阿弥陀岳からの下降で道迷い。現在位置は確認していたので、阿弥陀岳南稜を登り返す。途中で2パーティーに分かれ行動し、後発の2人が滑落し、死亡した。



解説

頂上で標識を見て、下山する赤岳方面がどちらかは確認できた。文三郎道を下る予定だったが、視界が悪く風が強かったので、中岳沢を下るように予定を修正。ひとしきり下ってきつい斜面が平らになり、沢沿いとなった。青ナギの下付近で地図を確認したが、途中からルートを間違えたことに気づいていたと言う。本事例では現在地が把握できていたので、彼らは雪崩の危険地帯に向かって引き返すことはせず、南稜に登り返すことを決めたのだろう。

南稜への尾根途中でビバーク。翌日11時青ナギ。13時風が強まる。15時30分3人がP3到着、約30分遅れて2人が到着。先着の3人は先に阿弥陀岳に先行し行者小屋に降りるようリーダーより指示がある。遅れる2人はザイルを結び阿弥陀岳へ。18時先行3人は行者小屋に到着。後の2人は降りてこない。23時、警察に救助要請。翌々日に二人が滑落しているところを発見した。

ホワイトアウトの状態でも急な雪面の下り。中岳沢は北東に向かってる沢。間違えて下った立場川は南に向かってる。尾根の中心から左側の沢か？右側の沢か？分かりそうに思えるが、気象条件や疲労、雪崩への恐怖等で冷静さを失っていたのかもしれない。また、阿弥陀岳へ登らずに立場岳から尾根を下山するという選択肢はなかったのだろうか？と悔やまれる。ご冥福をお祈りいたします。